

ロシアの経済危機と次世代戦闘機調達計画の縮小

漢和防務評論 20151201 (抄訳)

阿部信行

(記者コメント)

ロシアの経済危機は、次世代戦闘機 T-50 の開発に大きな影響を与えそうです。漢和防務評論によると、試験飛行もままならない状況とか。またロシア空軍向けの SU-35 の生産ラインも中国が買ってくれないと維持できない状況のようです。ロシア通貨ルーブルの下落によって、中国の武器輸入は有利になるはずですが、ロシアは SU-35 を 2 年前の交換率で売却するようです。

KDR 平可夫モスクワ特電：

ロシアの最近の経済危機により、特にルーブル下落のため、ロシア空軍は、T-50 型第 5 世代戦闘機の調達計画を大幅に縮小することになった。したがって中国空軍の J-20 型ステルス戦闘機の実機数は T-50 よりも多くなる可能性が出てきた。2015 年 8 月のモスクワ航空ショーにおいて伝えられた T-50 に関するニュースは、芳しいものではなかった。

主なニュースとして、ロシア航空工業の消息筋は、ロシア空軍が調達数を縮小したので”最初のグループの調達機数は 12 機程度でも満足すべきだ”と述べた。現在の状況は、この目標でさえ短期間で実現できるのか？さらに減らされるかもしれない、と。一説によると：最初のグループの調達機数は”数機”レベルになる可能性がある。KDR は次のように考える：6 機以下には出来ない。生産コストが極端に増大するからだ。

消息筋の話：”今年 T-50 試験機の数 3 機増やす計画に変化はなく、すでに生産中である。ロシア空軍は、T-50 の調達数を減らした後、比較的安価な SU-35 の調達を考えており、元の計画ではこの航空ショーで契約に署名することになっていた。しかしこの目標は達成できていない。最初の計画ではロシア軍が再び 48 機の SU-35S 型戦闘機を調達することになっており、そうすれば 2016 年以降、海外輸出に依存しなくとも、SU-35 の生産ラインを継続稼働させることが出来たのだ。2009 年に発注した 48 機の SU-35 の生産は 2016 年に完了することになっている。

中国に輸出する SU-35 は、ロシア空軍向け SU-35 に比べて価格が高騰するのだろうか？ロシア聯合航空機集団は、2015 年にロシア空軍に納入した SU-35 の価格を公表した。48 機の全体価格は 15 億ドルで、単価は 3200 万ドルである。ただしこれは機体のみの価格で、武器は含まれない。しかもルーブル下落後の交換率（1 ドルが 68 ルーブル）で計算された価格である。したがって 2 年前の交換率で計算すると、単価は 6000 万ドルを超える。

”我々は、中国に輸出する SU-35 の価格とロシア軍向けの価格を同じにすること

はできない。第一、航空機の購入機数が異なる。更に、我々は、中国にコピーされるマイナス面を考慮する必要がある”と。ロシアの権威筋はこのように述べた。もしロシア空軍が中国よりも先に SU-35S を発注したならば、生産ラインは中国向けの機体を同時に生産できるのか？との質問に、問題ないと答えた。

ロシア空軍の既定の計画によると、2008 年から 2020 年までに全部で 314 機の新型戦闘機を購入する。その中に 124 機の SU-34、50 機の MIG-29SMT、48 機の SU-35S、20 機の SU-30M2、12 機の SU-27SM3、55 機の YAK-130、海軍用 24 機の MIG-29K が含まれる。その他に 39 機の IL-76-90A 輸送機がある。今回の航空ショーで確認できたことは、：経済危機が存在しようとも、上述の購入計画に変更はないということだ。

新たな戦略爆撃機の生産については 2 つの計画がある。これらは経済危機以前に検討されたものである。

一、新たに PAK-DA 戦略爆撃機を開発する。

二、新型の TU-160M 型戦略爆撃機を生産する。同時に現役 TU-160 を継続就役させる。

第一の計画案のため、現在、新型 NK-32 型エンジンを準備している。設計図の作成、概念設計の段階にある。2023 乃至 2024 年には新時代の戦略爆撃機が初飛行を迎えるであろう。

しかし航空ショーでは、ロシア聯合航空機集団及びツポレフ航空機会社から詳しい説明は無かった。このことは、2 つの計画が未だ明確にならず、公開できないことを意味する。しかし TU-160M への改修計画は中止することはできない、と航空工業界の消息筋は航空ショーで明確に述べた。その主な理由は、全く新しいエンジンに換装された TU-160M は、推力は同じでも燃費が良いからだ。

以上